特集「宝塚―ピアノで踊る日本舞踊」

第２日目

総合司会　桑　原　和　美（就実大学）

ワークショップ

「ピアノで踊る日本舞踊」
指導

花　柳　せいら（花柳流研修部）
花　柳　達　真（花柳流研修部）
花　柳　大日翠（花柳流研修部）

ラウンドテーブル　（第２日目）

「ピアノで踊る日本舞踊」

ゲスト　花柳せいら（花柳流研修部）
花柳　達真（花柳流研修部）
花柳大日翠（花柳流研修部）
司会　村田　芳子（筑波大学）
古井戸秀夫（東京大学）

古井戸　皆さん，お疲れさまでした。今，せいらさんと話していましてね，皆さんすごく覚えが早かったですね。

花柳せいら　びっくりしました，ほんとに。

古井戸　ダンスの先生方だから，普通の人より難しい手をつけても結構ですと言って，扇１本でも難しいのに，２本までやっちゃいましたね。

せいら　扇１本でも，親骨を持つだけでも素人さんは大変なんですよ。

古井戸　今日のラウンドテーブルの趣旨は，洋楽で日本舞踊を踊る宝塚の方法を参考にして，学校のダンスの授業の中に，日本舞踊の特色あるリズムや動きを取り入れることができるのではないか，という問題提議です。

そこで花柳流のお家元に相談しましたところ，今日のゲストの３方をまず紹介してくださいました。

プロフィールを見ていただきたいんですけれども，せいらさん，達真さん，大日翠さん，３人とも日本舞踊協会の新春舞踊大会で文部科学大臣奨励賞を受賞されています。花柳流の古典の日本舞踊をちゃんと学ばれて，日本で一番の新人賞を受賞された３人の方なんです。それに加えて，創作舞踊でも高い評価を受けていて，ダンサーであると同時にコレオグラファーとしても活躍をされています。それなのでお家元が，推薦をしてくださったのだと思います。

今日のワークショップでは，「菊づくし」の首の振り方，「供奴」の手足の動き，など日本舞踊の独特な動きを，洋楽のカウントで教えてください，というお願いをしました。会員の皆さんはカウントに馴れているので，すぐにスッと，あっという間に日本舞踊の動きをされましたよね。

扇を使うのも，日本舞踊の特色です。扇をほとんど使ったことのない人でも，リズムに乗って楽しそうに扇を使っていましたね。その楽しさを体験していただこうという企画でした。

これから，ゲストの皆さんのお話をお聞きしたいと思います。せいらさんから，よろしくお願いします。

せいら　ご縁があって，沖縄の芸術大学に非常勤で日本舞踊を教えに行っております。１年に30コマの授業なんですけれど，前期後期2回集中講義という形で，１回行くと15コマ，１日３コマを５日間，ぶっ通しでやるという授業になっています。

私が教えに行く学生は琉舞を専門にやっている学生たちなので，基本的な「おすべり」（摺り足）とかはできるんですけれども，似ているようで体の使い方が違うらしく，１日の授業が終わると，もうみんな筋肉痛になってしまうような状況なんです。

私も琉舞を体験させてもらうのですが，そうすると学生が笑うんですね。日本舞踊が踊れるのに，なんで琉舞は踊れないんだ，と。先生ができないということは，これが琉舞の特徴なのかなということに気づいて，あ，この部分をもっと大切にすればいいんじゃないかとか，そういうことを考えたりするんですね。逆に私も同じで，みんなができないことは，ああ，ここが日本舞踊の特徴なんだと。教えに行くのより本当は自分が勉強していることのほうが多いような，そういう貴重な場をいただいているんです

古井戸　ありがとうございました，次に達真さん，よろしくお願いいたします。

達真　私は，師匠の助手として，宝塚・ＯＳＫ・日本歌劇団のレビュー，花柳界の芸者さん，歌舞伎の俳優さん，去年は松平健さんの振り付けをさせていただきました。そこで踊れない俳優さんに踊りを踊らせてくれというので，「こういう役柄で，こういうストーリーです」というと，成立してしまうんですね。日本舞踊には役柄があって，その役柄がお腹に入っている方ですと，踊れなくてもできるんだな，と思いました。そういうときは，カウントでは駄目なので，口三味線でやるようにしています。

私の出身は，東京芸術大学なんです。日本舞踊を中心に，能・狂言，三味線・鳴物，もっと広くピアノとかヴァイオリンとか洋楽系のもの，集中講義でやるバレエ，オペラとか，いろいろなことがたくさん勉強できるんです。役柄を理解するためにも，演劇的な科目があると良いのですけれども。

古井戸　所属は音楽学部ですね。

達真　音楽学部の邦楽科の舞踊コースです。

古井戸　沖縄県立芸大も，琉舞の方は歌も歌うし，楽器も演奏するし，音楽と舞踊がもともと一体化しているんですよね。では大日翠さん。

花柳大日翠　私は，「創作自由市場」というところで「洗濯機」を踊りにしてみようと思いました。お姫様の扮装で踊ろうと思っていましたら，師匠の花柳寿南海が「ロングのスカートで踊り

なさい」と，それでロングのスカートの上に割烹着を着て踊りました。でもお扇子は持っていいというので，お扇子は持ちまして（笑）。

「すすぎ」は，カフェミュージックみたいな，パオパオみたいな，「脱水」は『鏡獅子』の狂い，毛を振るうところ，グルグルしているのが「脱水」を想像させたので（笑）。「東京」という作品では，リクルートスーツで踊ってしまって。岡山出身なのですが，ホームシックになったときに創った作品です。完全に洋楽で創りました。

＜　映像　＞「平成模様12ケ月」の内
「洗濯機」（４月）「東京」（12月）

花柳大日翠　ありがとうございました。

古井戸　会員の皆さんの作品にも出てきそうな感じでしたね。（拍手）

「学習指導要領」と「ダンス」

古井戸　ここからは，小学校・中学校・高等学校の「ダンス」のカリキュラムの話に移りたいと思います。

村田芳子先生は，日本女子体育連名の理事長で，文部科学省の「学習指導要領」の「ダンス」作成協力で，主査をされています。村田先生，よろしくお願いします。

村田　学習指導要領は，10年にいっぺんずつ示されて，もちろん法的な拘束力はありませんので，それを目安にしながら学校の先生たちが授業を組み立てていきます。平成20年度に小学校と中学校，高校は21年度に改定されました。

新しい指導要領では，学年に応じてダンスの領域が以下のように設定されています。

小学校の体育
低学年（１－２年生）　表現リズム遊び（表現遊び・リズム遊び）
中学年（３－４年生）　表現運動（表現・リズムダンス）
高学年（５－６年生）　表現運動（表現・フォークダンス）
中学校の保健体育　①創作ダンス　②フォークダンス　③現代的なリズムのダンス
高等学校の保健体育　①創作ダンス　②フォークダンス　③現代的なリズムのダンス

中学校・高等学校の「フォークダンス」は，「伝承されてきた踊りを一緒に踊って交流する」もので，「日本の民謡と外国のフォークダンス」が例示されています。

同じく「現代的なリズムのダンス」は，「ロック，ヒップホップ等のリズムの特徴をとらえ，リズムに乗って全身で踊る」ものです。今回の改訂で，「ヒップホップ」が入り，話題になっています。

中学と高等学校には，①－③の他に「その他のダンス」というところがあります。学校の条件，指導者の条件が整えば，この３つ以外のダンスもとり上げていいですよ，という含みを持っています。

中学校・高等学校のダンスの領域①－③の歴史的な流れを見ますと，戦後，モダンダンスの精神を入れて，昭和22年の指導要綱で自由な表現が入り，そしてフォークダンス，ずっとこの２本柱でいっていたところに，10年前にいわゆるリズム系のダンスが入りました。

小学校の前，幼稚園は身体表現で，音楽と美術とダンスが身体的な表現で一緒になっています。小学校になると，「ダンス」は体育のほうに入ってきます。小学校の低・中学年（１－４年生）はまずは踊りを好きにさせよう，と。表現遊びとリズム遊び，あるいは簡単なフォークダンスを組み合わせた形で経験させようというようなものになります。

小学校５－６年生から中１－２年生まで，このうち中学１－２年生が「必修」です。この「必修」という意味は，①－③の３つの領域のダンスをとり上げてくださいよということで，ダンスの必修化イコール，ヒップホップでもストリートダンスでもありません。

中３から高３までの４年間の「ダンス」は「選択」になります。今まで学習してきた３つのダンスを自分で選択して，そこにいる仲間と自分たちでやっていくというか，学習していく，深めていくという段階になります。

問題は，体育の中は，「ダンス」の他に小学校では「体つくりの運動」「走・跳の運動」「機械運動」など５領域，中・高になると新たに「武道」が加わって７領域になります。その全てを合わせて，小学校が105時間，中・高になると90時間，しかありません。ダンスに当てられる時間数は，大体10から15時間です。限られた中で，この３つの領域を取り上げることになります。

現在の「ダンス」の教育の方向性は，それぞれのダンス領域の特性，「表現・創作ダンス」の特性，「リズムダンス」の特性，それぞれの中核になる楽しさや魅力や面白さというものを大事にしましょう，というものです。そのうえで，子供たちが将来ダンスを自分から楽しみ，創作ダンスを通じて自分で考え問題を解決する力，「生きる力」を涵養することを目標にしています。

現代的なリズムのダンスは，まずはロックや

サンバやヒップホップのリズムに乗って，お臍でリズム。全て，とり上げられている音楽が，大体ルーツを辿るとアフリカの，体幹部でとるリズムです。日本人の体はエンドカウントやアフタービートをとりにくい，拍にそのまま乗っていくオンカウントの体ですので，それを，エンアッ，エンアッと臍でスウィングするという，ちょっと最初はみんな棒立ち状態になりますが，それで弾んで，しかも他者と関わっていく。そこに領域の特性があります。

また，小学校は体育の専科がありませんので，全ての教科を教える小学校免許。中学でやっと体育の専科ですけれども，ダンスだけじゃなくて全ての種目を教える。資格が必要なのは教員免許ですので，その指導者の問題があります。武道は場所の問題と安全の問題と指導者の問題，ダンスはひとえに指導者の問題があります。リズム系のダンスもそうだし，創作ダンスもそうだし，フォークダンスもそうだと思います。

古井戸　実は時間が大幅に超過しています。申し訳ございませんが，プログラムはここで閉めたいと思います。ラウンドテーブルは，フリー参加での討議にしたいと思います。

（ラウンドテーブル）

古井戸　片岡先生に総括をしていただいて，終わりにしたいと思います。

片岡　本当にきょうは素晴らしいシンポジウムになりましたよね。松本千代栄先生が戦後，学校の中に創作ダンスを入れて行く時のキーワードとして，「創造と伝承」というベクトルをもとに，創作ダンスとフォークダンスを入れたわけですね。そこにいま，村田先生がおっしゃったように，自分の感じていることを考えて表現するということと，もうひとつは仲間と一緒に踊るということのベクトルをかみ合わせて，領域ができているわけなんです。

かつて花柳千代先生が日本舞踊の基本技法というのを分類して，実は日本舞踊は技術と分離していませんよね，西洋系のものとは違って曲目仕上げでやっていきますから，それをやはり技法をきちんとすれば学校教育にも入れるんじゃないかということであれをなさったと私は伺ったんですね，それもひとつ考えていく視点ではないかなと思ったりしています。

そしていちばん新しいキーワードで言うと，コミュニケーション能力の不足ということが，いまの日本人の大きな課題だと言われていて，表現はとにかく大事だということになっています。そういうことができていくと戦略が立つのではないかなと思います。

古井戸　話は尽きないと思いますが，外は寒くなってまいりました。その分，銀杏の落葉が綺麗です。どうぞ気をつけてお帰りくださいませ。２日間ありがとうございました。（拍手）

（　了　）

（追記）

ラウンドテーブルでは，ゲストを交えて，以下の質疑応答がありました。

Q　私は，お茶大で４年前に花柳和先生に教えていただいたんですが，そのときは「鈴太鼓」（娘道成寺）を口三味線で教えていただいたんですけれども，モダンダンスでも，口三味線というか，「スーッ」といって「ポン」みたいな，口でやったりすることもあるので，口三味線に対しての，やりづらいとか，そういう思いはなかったんですけれども，きょうのようにカウントで教えていただくことで，より身近に感じるというか，やりやすさは感じました。

Q　盛んにカウントで教えると簡単だからいいんじゃないかというお話があるんですが，何のために日本舞踊の踊りを学校教育の中に入れようとしているのかというところに，原点に戻るんですが，日本の伝統的な文化として教えていきたいということであれば，口三味線じゃなかったら意味がないのではないでしょうか。

Q　今年亡くなられた若松美黄先生の授業をとったことがありまして，そのときに若松先生が盛んに，最近の子はＣＤとかが出るようになって，自分で歌って踊りの練習をしなくなったということで，けっこうお怒りになっていたんですね，その時。それで日本舞踊はやはり口三味線をしながら練習をするという，歌いながら言葉と体，振りをつないでいくという練習をされている。日本舞踊の方々は，そういった口三味線もしながら練習をしていくということを，どういう感じでとらえられているか，教えていただければと思います。

達真　日本舞踊を教える者は基本的に，僕の考えで申しわけないですけれども，三味線は絶対弾けなきゃいけないと思っています。なので，昔の人は全員，三味線を弾きながら口三味線で全部，例えば，「トトチリリリリリリ」と。昔はテープがありませんでしたので。口三味線を言う，言わないというのは基本的な，もう本当に師匠をやる上では絶対に必要なことだと思っています。

大日翠　例えばさっき，「ヤーヨイヤー，ウッ，ヤアヨオイーヤア，ハオーッ」とやると，そう言うと体がそう動くんですよね。「ヤーヨイ」って，「ヤ」よりも「ヨイ」は弱いとか，「ヤーヨイ」というのは，丹田のこういうのが変わってくるんだと思います。「ヤーヨイヤー，ヤアヨオイーッヤアッ，ハオー」ってなると，おなかの力が変わってくる。

（文責　古井戸）